

第20回「奥の細道」滑川サミット

越のまほろばー豊饒の地を未来に

会期 7月31日 ~ 8月1日

会場 滑川市民交流プラザ3階研修室



奥の細道行程図 (部分)

早稲の香や
分け入る右は
有磯海
芭蕉

基調講演 「北陸路の芭蕉」 嵐山光三郎氏 (作家)

とき 7月31日 15:30 ~

ところ 市民交流プラザ
滑川宿と芭蕉史跡めぐり

とき 8月1日 10:00 ~

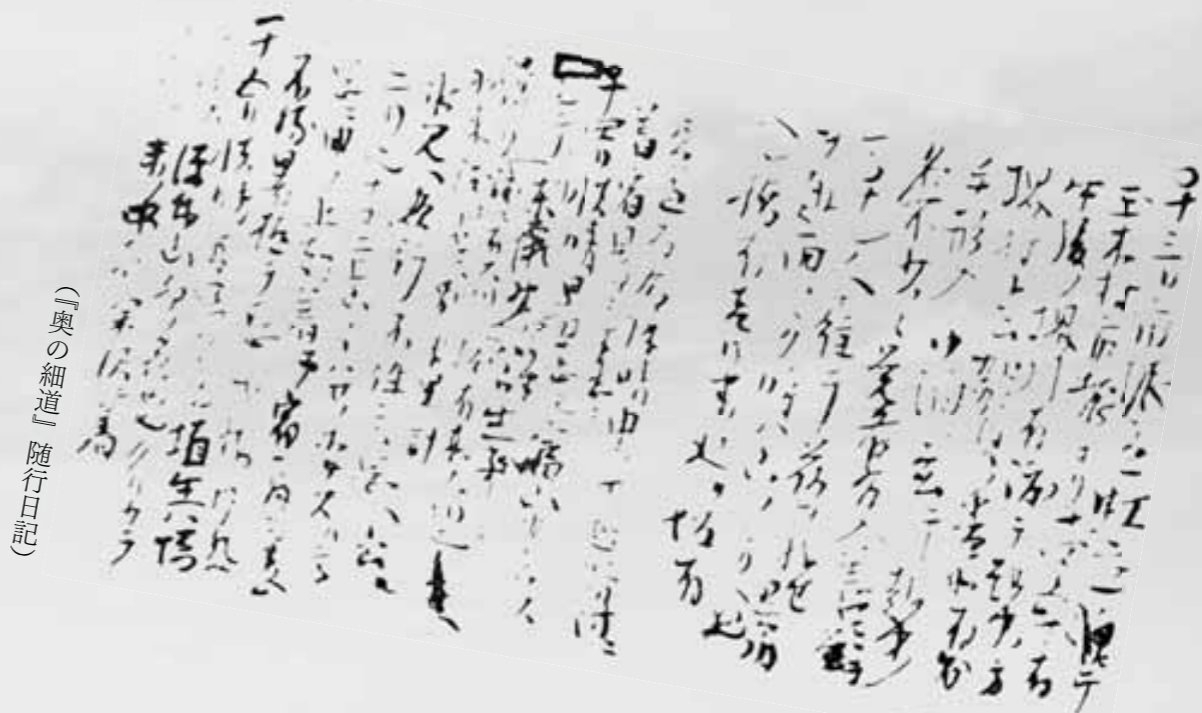
ところ 橋場~櫛原神社

〔申込み方法・問合せ先〕

いずれも7月21日 までに往復はがきでお申込みください。

滑川市立博物館 〒936-0835 滑川市開676

076-474-9200 FAX 076-474-9201



〔奥の細道〕 随行日記

「奥の細道」北陸路と蕉門の人々展

とき 7月31日 ~ 8月26日 10:00 ~ 18:00

ところ 滑川市立図書館 催事室 入場料300円(一般)

「奥の細道」と芭蕉講座 (いずれも13:30 ~ 15:00 図書館4階視聴覚室)

8月5日	芭蕉の肖像の見方	横浜文孝 江東区芭蕉記念館学芸員
8月12日	「奥の細道」北陸路の旅の実際	金森敦子 ノンフィクション作家
8月19日	「奥の細道」と越中の俳諧	大西紀夫 富山短期大学教授
8月26日	芭蕉の謎 - 寿貞と桃印	田中善信 白百合女子大学教授
9月2日	「奥の細道」出立を予告する 2通の手紙	塩村 耕 名古屋大学大学院教授

申込み締切日 7月21日 までに往復はがきで

滑川市立博物館 〒936-0835 滑川市開676

076-474-9200 FAX 076-474-9201

早稲の香や分け入る右は有磯海

「越路三吟懐紙」とよばれる芭蕉の名品が残っています。出雲崎で詠んだ名高い「荒海や佐渡に横たう天の河」と越中での「早稲の香や」の秀吟が認められた優品で、親知らず子知らずの難所を越えてやつのこと、越中の国に入ったことを記した後、「早稲の香や」の句が書かれており、新川郡の情景を詠んだ根拠を示すと考えられています。

奥の細道と滑川宿

時は、元禄2年(1689)弥生(3月)の末、江戸深川(東京都江東区)の芭蕉庵を曾良と共に旅立った松尾芭蕉は、奥州街道を北上し、西行法師の足跡を慕って白河の関を越え、日本三景の松島や藤原三代栄華の地平泉を訪ねました。そのあと日本海側に出て象潟、出羽三山などの歌枕を見て、旧暦7月13日に越後市振から境川を渡って越中へと進み、黒部四十八が瀬を越えて滑川の宿に入り、一夜の旅衣を解きました。

「奥の細道サミット」

古典文学の傑作「奥の細道」の訪問地や芭蕉に縁深い市町や団体が結集して、地域の芸術や文化の活性化に役立てようと広く会議を興したもので、今年20回を数え、滑川市で開催されます。芭蕉が来訪した7月、新築成った福祉の拠点、市民交流プラザを主会場にして代表者会議や関連事業を展開するものです。皆様のご参加をお待ちしております。